

平成23年5月27日

プレゼンテーション
「環境未来都市」構想推進フォーラム
IN 九州

岩科健一

北九州高速鉄道(株) 代表取締役社長

NPO夢追いバンク 理事長

岩科 健一

Profile

- 昭和43年 新日本製鉄入社、戸畑配属後、輸出部門へ(約20年間)
昭和55年～ ロスアンゼルス事務所(5年間)
- 昭和63年 スペースワールドプロジェクト班プロジェクトマネージャー
以降、一貫して都市的開発部門
- 平成14年 (株)新日鉄都市開発九州支店長
- 平成21年 新日鉄卒業、北九州高速鉄道(株)代表取締役社長就任

現在:北九州モノレール社長

:次世代システム研究会・ストック型市街地推進協議会委員長

:日本プロジェクト外産業推進協議会・エリアマネジメント推進部会座長

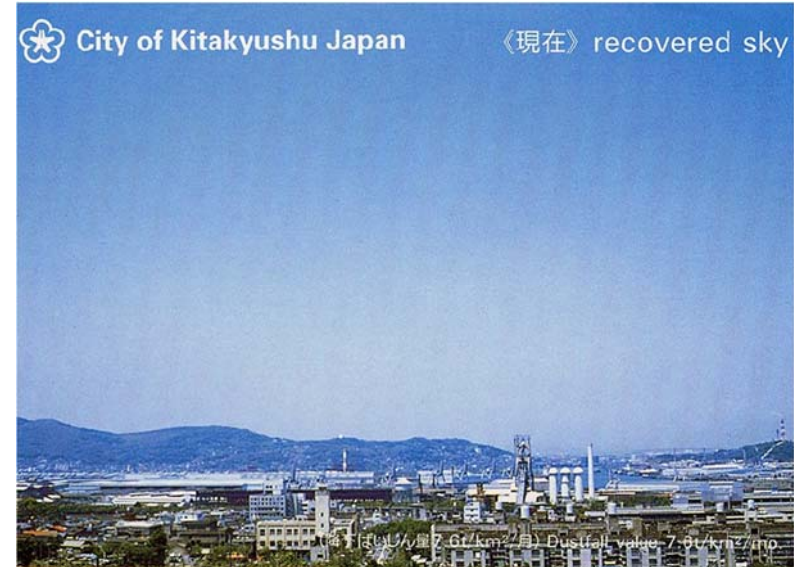
:NPO夢追いバンク理事長

:九州国際大学客員教授

:早稲田大学環境総合研究センター招聘研究員

その他

環境破壊から環境修復⇒環境創造都市への取組みへ



八幡東田総合開発

70社7000人 就業

来街者 1000万人／年

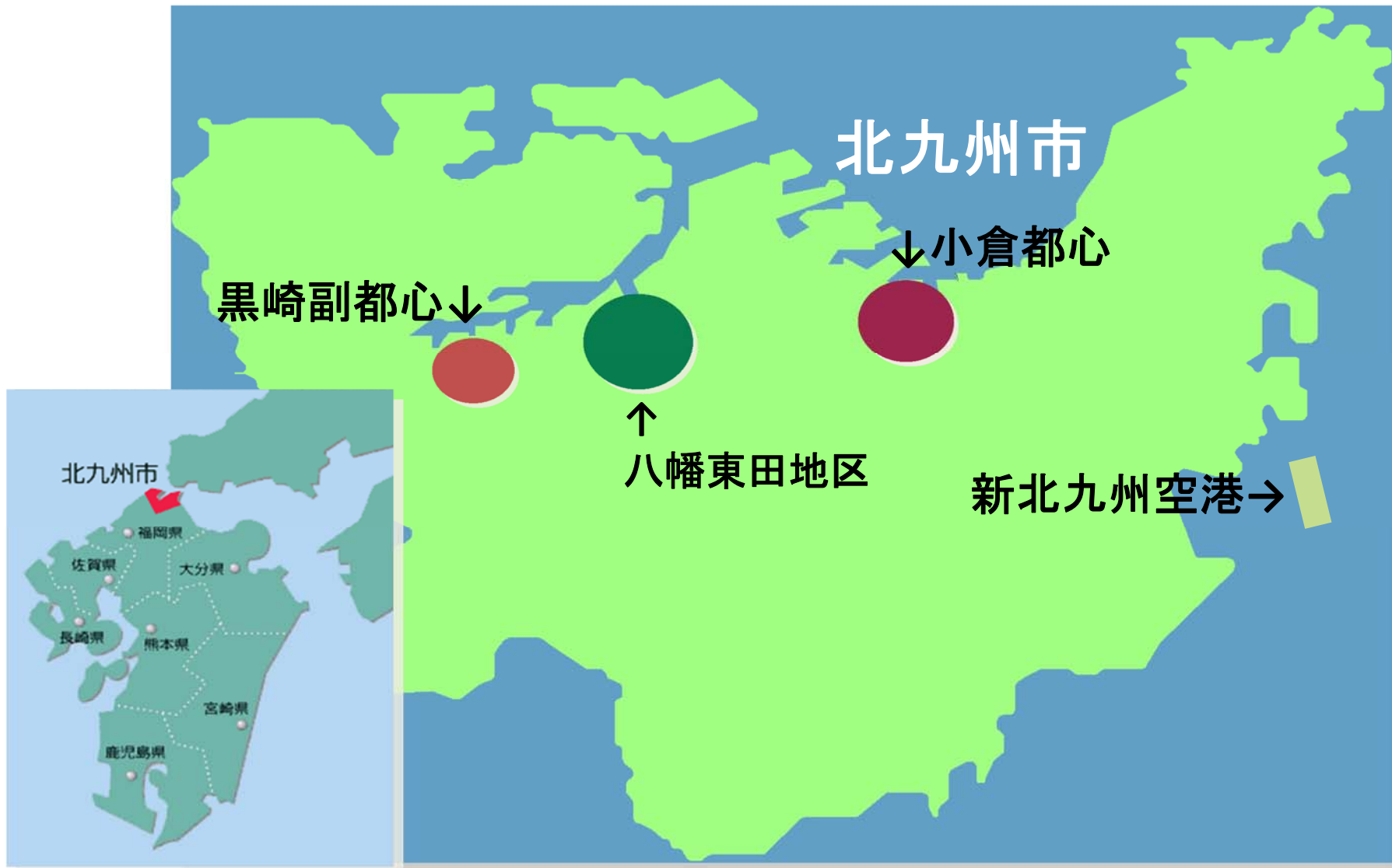
700人 居住

東田地区 約120ha



八幡東田地区の立地

百万都市・北九州市の中心に位置



東田総合開発のあゆみ …… 私のやってきたこと

明治34年(1901年) 官営製鉄所操業開始

～20世紀 日本産業近代化の礎

～環境破壊と環境修復

～鉄鋼業構造変化による空洞化

昭和63年(1988年) 北九州市ルネッサンス構想策定(末吉 興一 市長)

平成02年(1990年) 宇宙テーマパーク「スペースワールド」開業

平成06年(1994年) 土地区画整理基盤整備着工

平成10年(1998年) 日本テレコム社立地(企業誘致第1号)

平成14年(2002年) 土地区画整理事業竣工(総事業費 約500億円)

「いのちのたび博物館」「環境ミュージアム」開館

平成15年(2003年) 環境共生まちづくりモデル地区指定

平成18年(2005年) イオン・ナフコ 大規模商業施設オープン

平成20年(2008年) 「環境モデル都市」北九州の先進モデル拠点に位置づけ

企業人として21年間

事業レベルでの実証

平成21年(2009年) 「北九州水素タウン実証地域」指定

平成22年(2010年) 「北九州スマートコミュニティ創造事業」指定

街づくりコーディネーターとして
2～3年

八幡東田グリーンビレッジ構想



H16「八幡東田グリーンビレッジ構想」
実施計画策定

街づくりのコンセプト

環境・情報・文化の融合

- ◆環境破壊 → 環境修復 → でも…
- ◆環境トラウマは環境で乗り越えちゃう！



環境共生まちづくり推進プログラム(24プログラム)

産業ゾーンと生活ゾーンが共生するまちづくり

共有価値の創造

- ・カーシェアリング
- ・北九州市民環境パスポート事業
- ・エコドライブ支援プログラム

カーシェアリング



地域住民・立地企業・ゲストが環境まちづくりの主役

- ・エコクラブハウス
- ・地球温暖化対策地域協議会

環境共生住宅



快適な暮らしの創出

- ・環境共生住宅
- ・微気候形成プロジェクト



壁面緑化

環境配慮で統一した施設整備

- ・リサイクル品の基盤素材への活用
- ・雨水・中水の利用
- ・自然エネルギーの活用
- ・壁面緑化
- ・屋上緑化

循環型エリア

マネジメントシステム

- ・余剰電力・熱などの街への活用

製鋼工場



街並み形成

- ・街並み形成軸と歩行者ネットワークの構築
- ・東田グリーンビレッジ植林事業



植樹祭

具体的取り組み 事例その1 …… 先ずはソフト

お金がかからない・地域への根づき

街全体が環境ステージ (積極的な環境学習・環境活動の場)



市民環境学習の拠点：環境ミュージアム



住民による植樹活動



エコドライブ教室



まちづくり集会

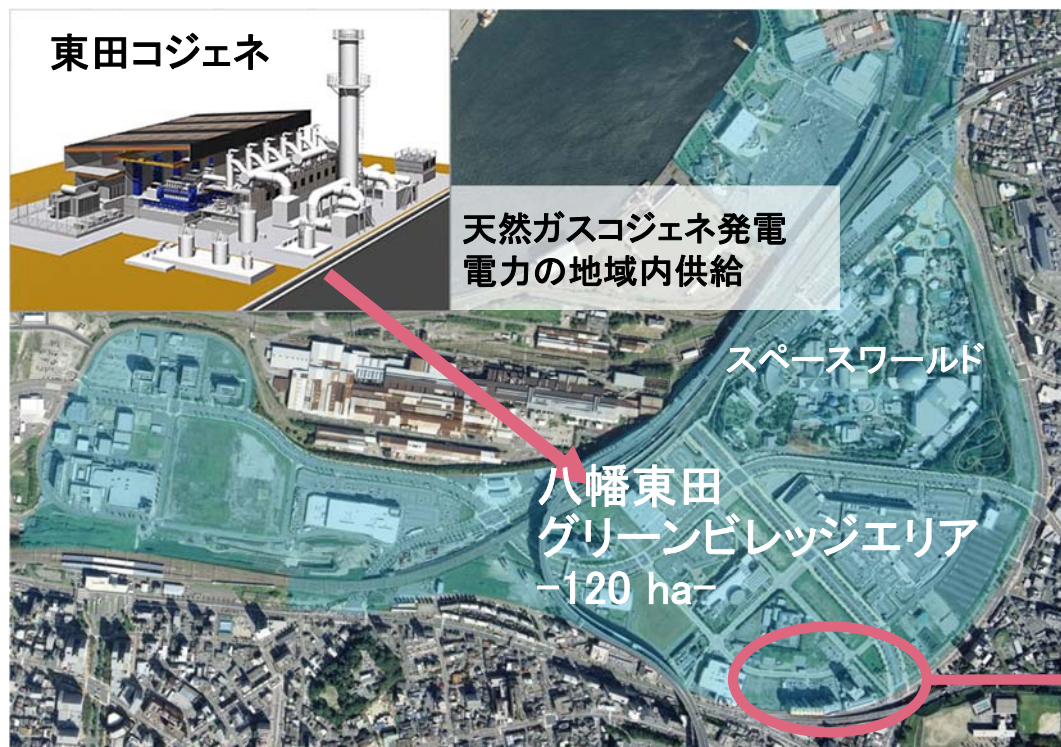


社長公認 堂々ごみひろい

◆東田エコクラブを拠点とした市民環境活動

東田の立地企業や地域住民が積極的な環境活動でまちづくり

リビオ東田ヴィルコート



※全国初！
環境省「街区まるごとCO2
20%削減事業

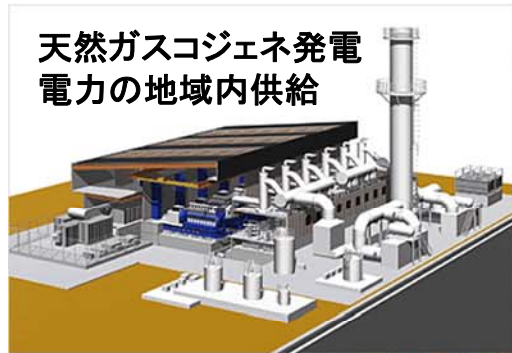
事業計画

- 総整備戸数：約218戸
- 事業年度：平成18～20年度

次世代省エネ基準対応住宅との比較で、
CO2削減率：約34%



エネルギーの地産地消＝「東田コジェネ」



東田コジェネ
(LNGコジェネ)
32,000kw
H17年2月稼働

いのちのたび博物館
(太陽光発電)
160KW
H18年度稼働

八幡東田
グリーンブリッジエリア
-120 ha-

八幡製鐵所
(副生水素ガス)
水素ステーション(SS)
燃料電池等への供給

東田環境共生住宅
(太陽光発電)
約200KW(最大)
H19年度より稼働

これからの取組み 北九州スマートコミュニティ創造事業

地区内の契約電力(21,000kW)の10%相当(2,000kW)分を、新エネルギー、地域エネルギーで供給

● タウンメガソーラー



地域内で、1,000kWの太陽光発電を整備



● 工場排熱の活用

トランスヒートコンテナ

地区内の工場廃熱をオフライン輸送し、植物工場等への面的利用を実証

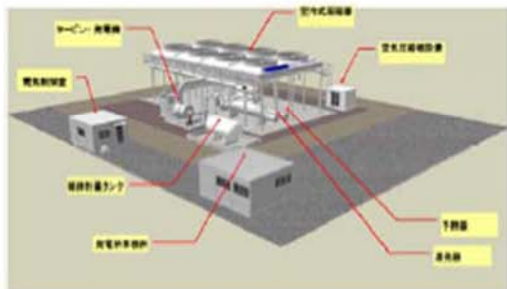


近隣工場

植物工場

バイナリー発電

工場の低温廃熱を活用したバイナリー発電の実証



● 北九州水素タウン

副生水素パイプラインにより水素を供給
(燃料電池等で利用)



● 直流電流実験集合住宅の整備

太陽光等の直流電流を変換せずに利用する
直流電力住宅を整備



● 小型風力発電

地域内商業施設や公共空間
で小型風力発電を導入



● 風力発電等の仮想導入

季節や天候に影響
される風力発電等
の系統への最適導
入方法を検証

風力発電
仮想導入



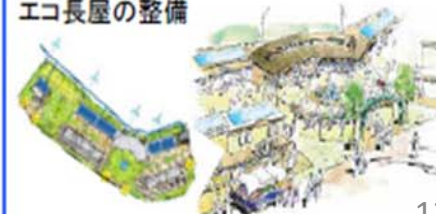
風力発電所
1.5万kW



メガソーラー

● 東田エコ長屋の整備

太陽光発電や次世代省エネシステムの
活用、NPO活動拠点等の機能を有する
エコ長屋の整備



これからの取組み 北九州スマートコミュニティ創造事業

センターと双方向で通信、制御を可能とするシステムを導入と、それに対応したHEMS、BEMSを集中導入



八幡東田地区

いまや環境メニューてんこ盛り

◆環境モデル都市

◆北九州水素タウン

◆北九州スマートコミュニティ創造事業

でも

環境メニューって単なる部分・デバイスかも！？

地域の課題はCO2を減らせばいい訳じゃない

高齢化、少子化、空洞化・限界集落 etc

2050居住地の2割消滅

3大都市圏への人口集中 . . . 国交省中間報告

でも

8割の地方都市・集落は残る

モノ作りの場・技術を守る

農業・漁業を守る

里山・日本の景色を守る

歴史・風土・文化の記憶を守る

だから

地方都市・集落をサステイナブル(持続可能)とする必要がある

暮らしたいまち、活力あるまちとして再生・再編が必要



地方都市・集落のリサイクル

キーワード

エコ・コンパクトシティ、結・絆、安全・安心・快適・綺麗

